

公社債市場動向 (2020年7月)

大和証券 金融市場調査部

【概況】7月の国内債券市場では、前月まで続いていたスティープニングから、フラットニングに転じた。7月の国債の大増発を無難に通過し、需給面での不透明感が和らぐ中、より長期的な観点から世界経済の成長率低下が意識された部分もあり、債券相場は持ち直した。7月下旬からドル安が急激に進んだことで、ドル円が一時105円を割れる場面も見られたが、国内債券市場の反応は限定的で、総じて動きの小さい月であった。

【7/1-3】：1日は、前月末に公表された日銀オペ方針にて債券購入予定額が債券市場の失望を招いたことで、JGB10年は0.045%に上昇。2日、債券が足もと軟調に推移する中で迎えた10年入札が好調な結果となり、JGB10年は0.040%で引けを迎えた。3日は、超長期債への買戻しが入り、JGB10年は0.020%に低下。

【7/6-10】：6日は、株式の上昇や明日に控える入札への警戒感を受けて、JGB10年は0.040%に上昇。7日、30年入札が予想よりも強い結果となり、JGB10年は0.035%に低下。8日は、前日の入札結果や前日海外時間に米カーブがフラットニングしていたことを受け、JGB10年は0.015%まで低下。9日は、5年入札が強かった一方で10年債は動きに乏しく、JGB10年は0.015%で変わらず。10日、カーブはツイストスティープし、JGB10年は0.015%で変わらず。

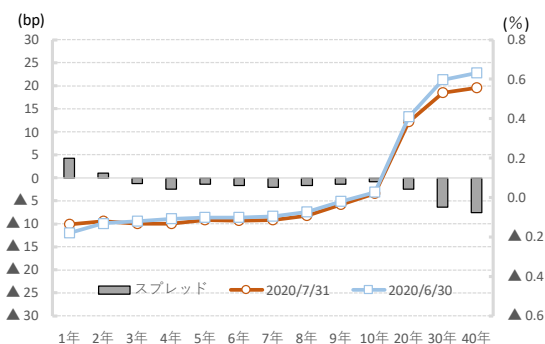
【7/13-17】：13日、新型コロナウイルス治療薬への開発期待が高まり、海外金利の上昇とともに国内金利も上昇した。JGB10年は0.025%に上昇。14日、翌日に金融政策決定会合を控え、慎重な動きとなった。JGB10年は0.020%に低下。15日、金融政策決定会合を無風で通過し、

JGB10年は0.020%で変わらず。16日、前日海外時間に新型コロナウイルスに対するワクチンについてポジティブなニュースが出たことで米金利が上昇したが、国内金利は流動性供給入札の順調な結果を受け堅調に推移。JGB10年は0.010%に低下。17日、5年超10年以下の日銀オペが甘い結果に終わったがあまり材料視されず、JGB10年は0.010%で変わらず。

【7/20-22】：20日、明日に20年入札を控え、債券は軟調に。JGB10年は0.020%に上昇。21日、20年入札は市場予想を上回る好調な結果となり、イールドカーブはブルフラット化した。JGB10年は0.010%に低下。22日は、国内は連休前ということもあり、閑散とした相場となった。JGB10年は0.010%で変わらず。23、24日は祝日で国内市場は休場。

【7/27-31】：27日、40年入札を翌日に控え、債券は軟調に推移。JGB10年は0.015%に上昇。28日、入札前から買いが進んでいたが、入札結果自体は無難なものに。一方で長期債は上値が重く、JGB10年は0.020%に上昇。29日、一部の格付け会社が日本の格付け見通しを「安定的」から「ネガティブ」に変更したものの、相場の反応は限定的。前日の入札を通過した安心感からか、カーブはフラット化しJGB10年は0.015%に低下。30日、前日海外時間に7月FOMCが開かれた。長期的な金利水準の低位安定が意識されたか、米金利は低下。国内市場では、2年債入札が順調な結果となったが長期債の上値は伸びず、JGB10年は0.015%で変わらず。31日は、東京での新規感染者数が400人を超えるとのニュースが流れるなか、債券相場はしっかりと推移し、JGB10年は0.010%に低下して月内の取引を終えた。

■ 図表：月末からのイールドカーブの変化



出所：Bloomberg

■ 図表：長期金利の推移



出所：Bloomberg